

# アフエット®フロアブル

■種類名：ペンチオピラド水和剤  
 ■有効成分：ペンチオピラド ----- 20.0%  
 ■化管法指定物質：ペンチオピラド [第1種] ----- 20.0%

■登録番号：第22209号  
 (三井化学クロップ&ライフソリューション登録)  
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)  
 ■登録初年：2008.07.23  
 ■性状：類白色水和性粘稠懸濁液体  
 ■有効年限：3年  
 ■包装：100ml×60本(4年)  
 500ml×20本

## 【特長】

- 担子菌、子のう菌、不完全菌に属する幅広い植物病原菌に対し、高い活性を示す新規なチオフェン系殺菌剤。
- 既存薬剤耐性菌(ジカルボキシミド系耐性灰色かび病菌、ストロピルリン系耐性うどんこ病菌など)にも優れた効果を示す。
- 分生胞子の発芽阻害に優れるため、発病前から発病初期の予防的散布が効果的である。また、孢子形成阻害作用が強く、二次感染の防止も期待できる。
- 多くの適用作物で収穫前日まで使用可能。幅広い時期で使用できる。

## 【適用内容】(2024年3月27日現在)

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	「ペンチオピラド」を含む農薬の総使用回数
小粒核果類 もも、ネクタリン	灰星病 黒星病	2000	200~700 ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
おうとう	灰星病、幼果菌核病						
なし	黒星病、赤星病 うどんこ病						
りんご	斑点落葉病、褐斑病 モニリア病、黒点病 すす点病、すす斑病						
かんきつ	灰色かび病、そうか病						
かき	落葉病						
ぶどう	灰色かび病、晩腐病 黒とう病、うどんこ病 褐斑病、さび病						
小麦	赤さび病	60~150 ℓ/10a	収穫14日前まで				
てんさい	根腐病	200~400	ペーパーポット 1冊当り 1ℓ (3ℓ/m <sup>2</sup> )	移植前	1回	苗床 灌注	4回以内 (苗床灌注は 1回以内、散布 は3回以内)
	葉腐病			収穫7日前まで			
キャベツ	灰色かび病、菌核病 株腐病、根朽病	2000	100~300 ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
はくさい	黒斑病、白斑病、菌核病 尻腐病						
はなやさい類	菌核病、黒すす病、根朽病						
つるな	菌核病						
にら	白斑葉枯病、さび病	1000~ 2000	0.5~ 1ℓ/m <sup>2</sup>	収穫前日まで	2回以内	株元 灌注	2回以内
	白絹病						
にら(花茎)	白斑葉枯病 さび病、白絹病	2000	100~300 ℓ/10a	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内
しそ	灰色かび病 斑点病						
セルリー	斑点病、菌核病						
しょうが	白星病						
パセリ	うどんこ病						

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ベンザブロンを含む農薬の 総使用回数										
にんじん	黒葉枯病、白絹病 うどんこ病	2000	100~300 ℓ/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内										
未成熟とうもろこし	紋枯病				2回以内		2回以内										
アスパラガス	茎枯病、褐斑病、斑点病				4回以内		4回以内										
きゅうり	灰色かび病、菌核病 うどんこ病			2000~4000	収穫前日 まで		3回以内	3回以内									
メロン	つる枯病 うどんこ病																
すいか	菌核病、つる枯病 うどんこ病	2000		100~300 ℓ/10a					収穫前日 まで	3回以内	3回以内						
かぼちゃ	うどんこ病、つる枯病																
ズッキーニ、にがうり	うどんこ病																
ししとう	灰色かび病、うどんこ病 黒枯病、斑点病																
いちご	灰色かび病、うどんこ病 輪斑病	2000~4000										100~300 ℓ/10a	収穫前日 まで	3回以内	3回以内		
オクラ	灰色かび病、うどんこ病																
トマト	灰色かび病、菌核病 葉かび病、すすかび病 うどんこ病																
ミニトマト	灰色かび病、菌核病、斑点病 葉かび病、すすかび病 うどんこ病																
ピーマン	灰色かび病、黒枯病 斑点病	2000	100~300 ℓ/10a		収穫前日 まで	3回以内	3回以内										
	白絹病 うどんこ病	2000~4000						1 ℓ/株								株元灌注	
なす	灰色かび病、菌核病 うどんこ病、すすかび病 褐色斑点病、褐色円星病	2000		100~300 ℓ/10a				収穫前日 まで	3回以内	3回以内							
とりかぶと(薬用)	白絹病	1000									生育期					株元灌注	4回以内 (株元灌注は 2回以内、 散布及び 無人航空機 散布は合計 2回以内)
ねぎ	白絹病 黒腐菌核病	1000~2000									1 ℓ/m <sup>2</sup>						
	さび病、黒斑病 小菌核腐敗病、小菌核病 白絹病、葉枯病	2000									100~300 ℓ/10a					収穫前日 まで	4回以内
たまねぎ	灰色かび病、灰色腐敗病 小菌核病、黒腐菌核病																
レタス 非結球レタス	灰色かび病、菌核病 すそ枯病、白絹病											3回以内	3回以内				
にんにく	さび病、葉枯病	原液									種球重量 の0.5~ 1.0%	植付前	1回	種球 塗沫	4回以内 (種球塗沫は 1回以内、 散布は 3回以内)		
	黒腐菌核病																
豆類(種実、ただし、だい ず、らっかせいを除く) 豆類(未成熟、ただし、 えだまめを除く)	灰色かび病、菌核病 さび病	2000	100~300 ℓ/10a		収穫前日 まで	3回以内	散布				3回以内						
だいず えだまめ	うどんこ病																
らっかせい	白絹病、灰色かび病、 菌核病、さび病、褐斑病																

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ペントラトを含む農薬の 総使用回数
エンダイブ	すそ枯病	2000	100~300 ℓ/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
しゅんぎく	葉枯病						
食用ぎく	灰色かび病、うどんこ病 白さび病						
食用さくら(葉)	うどんこ病、せん孔褐斑病		200~700 ℓ/10a	発病初期	3回以内		3回以内
花き類・観葉植物 (きく、ゆり、チュー リップ、りんどうを 除く)	灰色かび病 うどんこ病						
チューリップ	灰色かび病、うどんこ病 褐色斑点病						
きく	灰色かび病、うどんこ病 白さび病						
ゆり	灰色かび病、うどんこ病 葉枯病						
りんどう	灰色かび病、うどんこ病 花腐菌核病、褐斑病 黒斑病						
たばこ	菌核病		100~180 ℓ/10a				
とうき	苗立枯病	500~1000	セル成型育苗 トレイ1箱 または ペーパーポット 1冊 (30x60cm・使用 土壌約1.5~ 4.0ℓ) 当り0.2ℓ	育苗期	5回以内	灌注	5回以内

作物名	適用場所	適用病害名	使用量	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ペントラトを含む農薬の 総使用回数
きゅうり	温室、ガラス室、 ビニールハウス等 の密閉できる場所	うどんこ病	150g/10a	10ℓ/10a	収穫前日 まで	3回以内	常温 煙霧	3回以内
なす		すすかび病						

### 【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- 使用前によく振ってから使用すること。
- 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、本剤の過度の連用はさけ、なるべく作用性の異なる薬剤との輪番で使用すること。
- 空容器は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- ぶどうの幼果期(小豆大)以降の散布は、果粉が溶脱するおそれがあるので使用をさけること。
- にんにくの種球に塗抹する場合は、処理後、風乾した後に植付けを行うこと。
- ハウス等で常温煙霧に使用する場合は以下の注意事項を守ること。
  - ◆ 常温煙霧中は室内へ入らないこと。
  - ◆ 専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧すること。特に常温煙霧装置の選定及び使用にあたっては、病害虫防除所等関係機関の指導を受けること。
  - ◆ 作業はできるだけ夕刻行い、作業終了後6時間以上密閉すること。できれば翌朝までそのままし、開放後十分換気してから入室すること。
- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。とくに適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

### 【安全使用上の注意】

- ❖ 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- ❖ 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- ❖ 常温煙霧中はハウス内へ入らないこと。また、常温煙霧終了後はハウスを開放し、十分換気した後入室すること。
- ❖ 塗抹の際は不浸透性手袋などを着用すること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(魚類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。